



•Tackle Guide

ゲストフィッシュの大アジとマダイ。お土産としてポイントを変えリレー形式で狙うのかと思いきや、ポイントも仕掛けもそのまま食べてくるのだという。けもそのままで食って4号10メートルのハリスの人に食わず、隣の8号1メートルの人に5キロのタイが食ったこともありましたよ(笑)」と船長。横着者にも福がありそうなのはうれしい。

あとはアタリがくるだけ
 わが伝五郎丸は「潮が変わるまでこの辺で待ちますから」とじっとり粘る作戦。この日は11時半がソコリ(干潮)で、離れていく。久里浜方面へ向かう船もあれば松輪瀬方面へと戻る船もあった。ただ見る限り久里浜方面の船団は朝に比べるとバラけているので、あちらもそうは食っているようには思えなかった。



▲剣崎のワラサ、このまま上昇が続いてほしい

ひと昔、いやふた昔も前かな？ ワラサが秋の魚だったのは。最近では早い年には7月にその声が聞かれることもある剣崎ワラサ。今年は8月の中旬から食い出した。例年とちよつと違うのは釣り場が剣崎の北側、下浦沖だということ。そして数はそれほど上がっていないが、釣れるワラサは4〜5キロクラスの大群が多いと聞く。またゲストフィッシュも4〜5キロの大群が連日のように釣れているとの朗報。正直ワラサ釣りは楽しいが、夢中になって5本も6本も釣ると家に帰ってからの大変。デカイワラサ1本に大アジ1枚なんて理想形に近いじゃないの、つてことで三浦半島剣崎松輪港の伝五郎丸へと釣行した。

モーニングサービス

出船前に鈴木長喜船長に話を伺うと、「今のところ釣り場は下浦沖の2カ所です。まだバリバリ食うって感じではなくて、群れが回って来るとポツポツとアタる感じ。ただ型はいいですよ。ワラサは3キロから上5キロ超えもけっこう交じります。タイも4〜5キロ級が上がっていますね。あと大アジもけっこう食ってきます。全部同じポイントで仕掛けもワラサ道具のハリス6〜8号6メートルのままでいいですよ」と状況を教えてくれた。当日船長が選んだのは南側のポイント。久里浜方面にも船団ができて見えるのが見える。海面から35メートルの指示

その前後でまたチャンスタイムが訪れるはずとの船長の読み。沈黙タイムは長くエサも取られない状況が続くが、忘れたことにドーン！ とアタる。ヒットさせたのはまたも右トモの村上さんで、これはけっこうデカそうな引きっぷりだ。しかしそこはベテラン、落ち着いて安定のヤリトリで5キロ近いワラサが上がった。聞けばハリスは4号。

「俺はいつも4号6メートルだよ。4号でもゆっくりやればワラサも取れるからね」とのことだ。10時半を過ぎると海の中に変化が見られるようになった。それまでほとんど取れなかったエサが取られるようになってきたのだ。待ち時間を6分から5分、そして3分へと変えた。それでもエサ取りは続くので、タ

ナも1メートルずつ3メートルまで指示タナよりも上げたが、それでも取られる。いつそハリを小さくして正体を見てやろうかとも思ったが、時にはタイ(?)らしいエサの取られ方もしていたので、それはさすがにやめて、コマセを振らずタナでビタ止めするようにすると、ようやく3分インターバルで付けエサのオキアミが残ってくるようになった。

さあこれでは竿先が海中に引きずり込まれるのを待つだけ。相手はワラサか？ マダイか？ と気持ちの準備は万端だったのだが、アタったのは柴田さん。そして直後には左舷トモの大山さんにもアタる。二人ともけっこうな型物らしく簡単には浮いてこない。まずビシを手にしたのは柴田さんで、ハリスをたぐると重みはあるものの青物のような強い引き込みはなく、海面に姿を現したのは2.5キロ級の良型マダイだった。

すると4キロジャストの大アジだった。そろそろ残り時間も気にならなくなった12時前、ようやく私にもアタリが出る。タナ24メートルの浅場でのことで、コンコンとたたかれた後スコーン！ と気持ちよく竿先が入り込んだ。一呼吸おいて竿を手にしヤリトリ開始。「タイみたいだね」の船長の言葉どおり、何度か強く引き込まれるがドラグを出すほどではなく、竿先を送ってことなきを得る。タモを手にはスタンバイしてくれたお隣さんに「たいした型じゃないと思えますよ」と余裕をかましながらハリスをたぐる。水深が浅く水圧変化に耐えたのか、浮き上がるそばりを見せないが、この時点でもタイだと信じていた。が、海面下に見えた色は青黒い。40センチ級と良型ではあったがメジナでギャフン(でもこのメジナ、持ち帰って食べたら大変美味でした)。

●船宿information
 三浦半島剣崎松輪港
伝五郎丸
 ☎046-886-1534
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ワラサ乗合一人9500円(コマセ、氷別)
 ▶備考=予約乗合、6時半出船

鈴木長喜船長

釣果が上がらずHPの更新をしない船宿もあったくらい食いが渋めだったこの日、経験と読みで釣果をまとめた伝五郎丸・鈴木長喜船長には敬意を表したい。例年どおりなら多少釣果の波はありつつもワラサもマダイもロングランで狙える剣崎沖。今後本命場所の松輪瀬でも食うようになれば、いよいよ本格シーズン到来といえるだろう。



▲マダイもこれからどんどんよくなる時期

◎三浦半島剣崎松輪港発↓下浦沖

本格シーズンはもうすぐ？

剣崎のワラサ&マダイ好況

ダナでスタートすると、一投目からアタる。まず竿を曲げたのは左舷側の柴田さんがキレイなマダイだった。間を置かず今度は右舷トモの村上さんにアタる。こちらはちよいとサイズアップし、1キロに少々足りないサイズのマダイだった。村上さんはこの後すぐに1キロ級のマダイを連発。大アジも釣ってロケットスタートを決めた。船中ほかでも大アジが釣れてなかなかのモーニングサービスだったが、これは40分ほどで終了。本命ワラサの姿は見られず、見る限り他船でも上がった様子は見受けられなかった。30分ほど沈黙が続いた後、近くの船でワラサが上がったのが見えた。そろそろ回ってきたか！ と待ち構えていると、右舷ミ

ヨシ高部さんの竿がドーン！ と海面に突き刺さる。「それはワラサでしょう。慎重にやっつてよ」と船長から檄が飛ぶ。アドバイスどおり慎重なヤリトリの末、無事船長にタモ取りされたのは4キロはありそうな良型のワラサだった。そしてこの後、柴田さん、村上さんとワラサが連発。30分の間に3本のワラサが取り込まれた。

マダイ交じりで本命ワラサの写真も撮られてホッと一息。ここから私も竿を出すが、この後は我慢の時間が続いた。8時半を過ぎると辛抱堪らなくなった船が1隻また1隻と船団を

知得! Tips and Tricks 余裕を持って釣行を

地区や釣り物によっては「集まり次第出船」なんて所もあるが、松輪港では協定期間が決められていて、10月1日からは6時半だ。ただこれは港前に各船が集まりポイントへ向けて走り出す時間のこと。ワラサ釣りの場合は、ポイントが狭いイサキ釣りのように各船一斉にヨーイドン！ なんてことはないが、岸払いの時間ではないのでご注意ください。また現在松輪港では駐車場を工事中で、駐車スペースも普段より狭くなっている。週末などは駐車場所に苦慮する話も聞けるから、上記のことも踏まえ釣行時は早めの到着を心がけたい。

▲予約時/何時まで予約を受け付けられるかは聞いておくこと